

R6第2回学校運営協議会（全日制部会）議事録

校名	府立 春日丘高等 学校
校長名	濱崎 年久

開催日時	令和 6 年 10 月 25 日（金） 13:00 ～ 14:30
開催場所	大阪府立春日丘高等学校 本館1階 校長室
出席者(委員)	花崎委員、有福委員、藤委員、春山委員、川中委員
出席者(学校)	濱崎校長、藤澤教頭、立脇事務部長、大岡首席、山田首席
傍聴者	なし
協議資料	R6授業公開時間割、校内地図、学際領域に関する学科の説明（R6.8.26教育委員会会議より抜粋）
備考	

議題等(次第順)
<授業見学・報告事項について> ①授業見学の感想など ②学校経営計画の進捗状況 ③R7教科書が採択
協議内容・承認事項等（意見の概要）
○運営協議会委員の発言 ●本校教職員の発言 <授業見学について> ○2年生の数学の授業が、グループに分かれて授業をしていた。国語や英語など言語系の授業でグループワークは多いが、数学では珍しい印象。自分の高校時代を振り返っても数学・理科は黙々と授業を受けるのが多かった。大学などでは皆で分からない問題に挑まなくてはならないので、高校の時から分からないことを相談して解こうとする姿勢は良い。あれを今回の証明のような発展的な授業でやると理解度が深まると思う。 ●確かに、自分の授業でも、高度なことをやろうとすると分かる生徒と分からない生徒に分かれる。それを理解してもらおうと説明すればするほど、分かる子と分からない子との差がどんどん開いていくばかりで、分からない子が取り残される。それを言語化してお互いの理解を助けると、その時は時間がかかるが、結果として授業も前と変わらない進度でいける。 ○数学の問題演習は自分一人でもできる。数が少なくてもいいので、じっくり話し合う経験が大切。数学の証明のように言葉で説明しなければならないものは向いている。特にグループで話をするのは、勉強だけでなく、集団での振る舞い方も学べる。
○書道の授業で刻字というものを学んでいた。筆で書いたものを石膏ボードにトレースし、彫刻刀で削る。それにグラデーションの色を付けて、書道だけでも美術のようであった。生徒は一生懸命やっているが、字を削るので、字が上手く書けても削るところを失敗したらせっかくの字もダメになってしまうのが面白いと思った。 ○音楽ではピタゴラスイッチのような曲を練習していたが、リコーダーを使っていてソプラノ、アルト、バスリコーダーなどは初めて見た。 ○選挙を取り扱っている授業で、ある程度説明が終わったら、ペアでジャンケンをして負けた生徒が勝った生徒に習った内容を説明するという活動をしていて、楽しそうだった。習った内容を言語化することもできるので、いい取り組みだと思う。
○PCBのことを扱っている授業があった。PCBは私も仕事で扱うが、高校生からそんな高度な内容を学ぶのかと驚いた。 ○1年の社会の授業は有名塾講師のようで、パワーポイントを使って、大きな字で分かりやすく説明されていた。 ○黒板と電子黒板の併用をしているけれど、教室によっては西日が入って見にくい。 ●今は太陽の高度も低くなっていて日が入りやすくなっている。朝方は7・8組、夕方は1・2組がまぶしくなる。 ○先生方によって教材の色味やチョークの色を工夫していらっしゃるので、どんどん見やすくなるよう工夫してほしい。 ○ICTは先生によってスキルの差がでるのかもしれないが、今は若い者だけでなくみんながICTを使わないとやっていけない時代。ただ、事前の準備が大変そうである。 ○ICTが普及しても、紙とペンで生の字を書く習慣を付けることが大事だと思っている。今はみんなちゃんと手を動かして文字をかいているのがいい。 ○いずれタブレットと併用になっていくのかもしれないが、せめて穴埋めだけでも、自分の手で字を書く体験をすることが必要。
○先生が「これくらい分かっているよね」という感じで話している授業があって、自分が生徒だとキツいのではないかと感じた。自分も年齢とともに「分かって当然」という説明をしがちになっているが、相手と同じ年齢の頃は自分も出来ていなかったと思う。生徒との年齢が離れれば離れるほど、生徒の気持ちの方が分かり辛くなるのかもしれない。若い先生にそのようなスタンスの先生は見られなかった。 ○その先生も、無意識かもしれないが、生徒を焦らせるためにわざとそういう態度をとっている可能性もある。 ○全体的な感想としては、春日丘の生徒はいつ見ても真面目で、先生方もとても熱心であるということ。
<学校経営計画の進捗状況について> ●生徒の遅刻が減ってきた。 ○市内の中学校の吹奏楽の演奏を聞いた。昔と比べてとてもレベルが下がったと感じる。人数も減っているが、コロナの影響もあり、十分な練習ができないまま全体のレベルを維持できなくなっているのではないかと思う。そういう中学校と高校と一緒に合同練習をすれば、中学校としても有難い話だし、そこから春日丘に憧れてくれたら、どちらにとっても悪い話ではないのではないかと考えたりする。もちろん、同じ市立の小学校と中学校でもなかなか連携できないのだから、ましてや管轄が違う府立の高校だとそんな簡単にできることではないのだろうが。 ○中学生の数が激減している。サッカーでも野球でも今は合併しないと成り立たない。また、働き方改革の流れで土日のどちらかは必ず休むルールなどを徹底すると、全体的に部活動のレベルが下がる。部活動指導をする人の確保も今は大変なので、中学校はより合同部活動の要望が強いのでは。